

武蔵野市食品ロス対策事業について

食品ロスとは？

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を『食品ロス』といいます。日本国内の食品ロスは、家庭と事業者（食品製造業、小売業、飲食業等）の合計で年間 621 万トン、1 人 1 日あたりに直すと茶わん約 1 杯分のご飯の量（約 134g）にあたります。これは世界全体の食料援助量（約 320 万トン）の約 2 倍にあたります（H27 年実績）。これら食品ロスのうち約 45%は家庭から排出されるため、市民一人ひとりの取組が重要となっています。

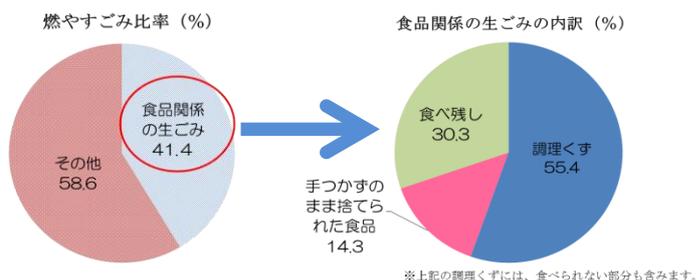
食品ロスの分類

- ・ 食べ残し
- ・ 手つかずの食品（賞味期限切れ等で使用されずにそのまま廃棄されたもの）
- ・ 本来食べられる筈の調理くず（過剰除去）

※自治体の調査方法によっては、ごみが処理施設に運ばれてきたときに調理くずが腐っているなどで、可食部か不可食部かどうかの判断が難しく、食品ロスの集計方法が異なる場合があります。

武蔵野市内の食品ロス

市内から武蔵野市では、毎年度ごみの組成を分析してごみ質の把握に努めています。平成 27 年度の調査では、燃やすごみのうち、**食品関係の生ごみ**が 4 割以上を占めていました。市民の 1 人 1 日当たりに直すと、食品ロスは約 164 g でした。



※上記の武蔵野市の食品ロスの数字には、判別不能のため、調理くずのうち不可食部の数字も含まれます。

武蔵野市における食品ロスの取組

武蔵野市ではこれまで、エコクッキングの普及啓発やイベントでのパネル展示等で食品ロスの啓発を行ってきました。更なる事業の拡充と先進事業の研究のため、今年 4 月に食品ロスの全国的な取組機関である「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会（事務局：福井県）」に加入し、先行している自治体と情報交換を行っていく予定です。

今後の取組みの方向性

- ・ 市民及び市民団体と協働した啓発活動
- ・ 飲食店と連携した啓発活動の推進
- ・ 小売業と連携した啓発活動の推進
- ・ 食育をキーワードとした教育・保育分野との協働
- ・ 福祉分野からの需要を繋ぐためのコーディネート